

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 7月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	2875100873		
法人名	株式会社アクティブライフ		
事業所名	アクティブライフ神戸		
所在地	神戸市中央区籠池通2丁目-2-10 (電話) 078-271-0500		
評価機関名	株式会社H. R. コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年6月12日	評価確定日	平成19年8月6日

【情報提供票より】 (平成19年5月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 7 月 13 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 24 人, 非常勤 人, 常勤換算	22.5

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての 2~4 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	318,450 円	その他の経費(月額)	33,000 円
敷金	① (300,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	円	おやつ 100 円
	または1日当たり 0 円		

(4) 利用者の概要 (月 日現在)

利用者人数	27 名	男性 2 名	女性 25 名
要介護1	3	要介護2	8
要介護3	10	要介護4	3
要介護5	3	要支援2	0
年齢	平均 86.2 歳	最低 75 歳	最高 102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 竹内内科・きよばやし歯科
---------	---------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型サービスとしての理念を明確に掲げ、地域社会とともに支えあう暮らしを継続する為の日々の支援に職員全体で取り組んでいるホームである。地域や家族の協力を大切に、行政との関わりにも積極的に取り組もうとする姿勢が見られる。職員は入居者の尊厳とプライバシーに配慮し、穏かな表情で優しい言葉掛けやさりげない支援を心掛けている。心身機能の維持の為にアクティビティを充実させ、職員も一緒に時間を過ごし、自然なかかわりの中で教えあったり支えあったりする関係を築いている。法人全体で職員育成の為に組織的な取り組みがあり、段階に応じた研修の受講による質の高いケアを目指す支援体制を整えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 外部評価については管理者・職員とも評価の意義を理解し、個別面談やミーティング等で、評価結果をサービスの質の向上へ活かせるよう話し合っている。地域や家族に対しては、運営推進会議や家族会等において評価結果とその後の取り組みについて報告している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 自己評価は、ユニット毎に一人ひとりの職員が評価項目に沿って日々のケ
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6) 会議の初回は認知症やグループホームについて理解を深めてもらう事から始め、現在までにホームの理念や方針・評価結果・研修の実施状況等を伝えるとともに、それぞれの立場から意見・要望を出し合い検討する場となっている。食中毒・身体拘束等その時々認識を深めていきたい事をテーマに討議する機会もあり、日々のケアに反映させるよう努めている。認知症介護実践研修の実習受け入れ等で市との関わりも継続している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8) 家族の面会時や電話等で入居者のホームでの様子や健康状態を伝えるとともに、報告レターとして文書で毎月1回送付している。重要事項説明書にホームや外部機関の相談窓口を明示している。年1回の家族アンケートの実施や、家族会及び運営推進会議等で家族の意見や要望を聞き、ホームの運営面に反映できるようミーティング等で検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 宅急便の取り扱いや市バスの券の販売等の業務を請負い、近隣の人々が気軽に立ち寄り声掛けができるよう取り組んでいる。行事等での関わりにおいても、餅つき大会での近隣との協力・地域の夏祭りや盆踊りへの参加・保育園との交流等が継続している。今後は地域の清掃活動への協力や近隣のスポーツセンター体操教室への参加等を検討していく意向がある。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念に沿って、入居者本位のケアを重視するとともに、地域密着型サービスとしての役割を理解し、地域や行政との協力で包括的な支援が継続できるよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各フロアに掲示している。ホームに関わりを持つ人々が理念を分りやすく認識していけるよう、各フロア毎に掲示の仕方に工夫が見られる。職員が理念を理解し日々のケアに活かしていけるよう朝礼時に唱和し、月1回実施している。ミーティング等で話し合うなど再確認できるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	宅急便の取り扱いや市バス乗車券の販売等業務を請負い、近隣の人々が気軽に立ち寄り声掛けができるよう取り組んでいる。ホームが設立され6年程経過し、地域との関わりも深まり、餅つき大会での近隣との協力・地域の夏祭りや盆踊りへの参加・保育園との交流等が継続している。地域の清掃活動への協力や近隣のスポーツセンター体操教室への参加等を今後検討する意向がある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価については管理者・職員とも評価の意義を理解し、ミーティングや個別面談等で評価結果と改善に向けての取り組みについて話し合った。自己評価は、ユニット毎に一人ひとりの職員が評価項目に沿って日々のケアを振り返り、個々の考えを各ユニットリーダーがまとめ、管理者と最終的に協議していく取り組みを実施した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在までに6回開催し、認知症についての理解を深めてもらう事から始め、ホームの理念や方針・評価結果・研修の実施報告等について話し合っている。食中毒・身体拘束等その時々検討し認識を深めていきたい事をテーマに討議する機会もある。家族への報告レターの送付時に運営推進会議の討議内容についても報告している。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症介護実践研修の施設実習の受け入れや、神戸市認知症介護ネットワーク会議へ継続的に参加している。市の取り組みである「出前トーク」を地域住民も参加し運営推進会議や家族会で取り入れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に入居者のホームでの様子を伝えるとともに、報告レターとして文書で毎月1回送付している。また健康面や受診状況については電話等でも報告している。職員の異動に関しては、所長の異動については家族に報告しているが、他の職員の場合は質問があれば状況説明を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームや外部機関の相談窓口を明示し、入居時に説明している。年2回開催している家族会及び運営推進会議で家族から意見や要望を聞き、ホームの運営面に反映できるようミーティング等で検討している。年1回家族アンケートを実施し、結果をサービスの質の向上につなげるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の異動を極力少なくする様取り組み、代わる場合も同じ事業所間での異動になる様配慮している。職員に対しては年2回の面接を実施し、職員が働きやすい環境について検討している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を策定し新人研修、フォローアップ研修等を継続的に実施している。認知症介護実践研修については、受講への取り組みも積極的で今年3名受講予定がある。介護福祉士等の資格取得への支援体制が整っている。法人内での研修や事例発表会を継続するとともに、職員一人ひとりのスキルアップの為に、ホーム独自の事例発表会を実施している。今後本社研修センターを積極的に活用する意向がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護実践研修の実習受け入れ施設である為、他ホームの職員との交流がある。法人内の他施設と定期的な交流会を設け意見交換を行っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前の家庭訪問で本人の意向を把握するよう努め、見学を実施するよう取り組んでいる。入居後も本人の様子を観察し、必要があれば家族の宿泊等協力の依頼を行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の趣味や得意分野を知り、力が発揮できる場を提供している。アクティビティなどの時間の中で、生け花・習字等、ともに学んだり教えあったりする場面があり、自然な状況の中で職員も教わり支えてもらう関係づくりがある。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の家庭訪問や見学時に本人・家族から今までの生活環境の情報を収集し、ホームの暮らしへの要望や意向を把握している。入居後も職員はミーティングや状況記録等にて入居者の情報を共有している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時等に本人・家族と話し合い情報収集後アセスメントし、本人のニーズに沿った介護計画になるよう職員全体で検討している。作成された介護計画は家族に配布し同意を得ている。家族に意見を書いてもらう欄を設け、家族の思いを把握し、計画に反映していくよう取り組んでいる。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な計画の見直しは3ヶ月に1回実施している。また期間内であっても、入居者の状況変化や家族の要望があれば臨機応変に見直している。入居者一人ひとりの生活面と医療面それぞれにおいて月に1回状態を振り返り、ミーティング等にて介護計画にそったケアができていないか確認している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望に応じ、通院時・入退院時の送迎や手続き代行等行っている。医療連携体制加算は導入していないが、併設施設の看護師に日常的に医療的な対応等について相談できる体制がある。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の受診又は往診による入居者の健康管理を行っている。入居者がかかりつけ医を希望する場合は、職員の付き添いで受診できるよう支援している。かかりつけ医と協力医は受診結果等の情報を共有し、入居者の状態変化に随時対応できるよう取り組んでいる。協力医は入居者の状態について24時間体制で相談に応じる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化に対するホームの方針を伝えているが、入居者の状態変化時等は家族・医師・職員が話し合いを重ね、重度化に対する方針を統一し、考えが共有できるよう努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	新人研修の中でマナーについて学習し、ホーム内では年1回マナー研修を実施している。一人ひとりの職員がマナーについて自己を振り返る機会を設け、入居者のプライバシーに配慮した対応ができているか確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の望む暮らしができるよう、本人のペースを尊重した対応を心掛けている。	○	個別性のあるケアの実践について研修会等の機会を増やし、職員のスキルアップを図る事が望ましい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、調理については厨房が担当しているが、配膳・後片付けは入居者の状況に合わせて一緒にしている。おやつ作りや月に1回程度の食事については、入居者と職員が協力して作る機会を設けている。月1回栄養士を交えてミーティングを実施し、入居者の要望に応じた対応ができるよう取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼入浴、夜入浴と時間帯を工夫し、入居者の今までの習慣を大切に対応できるよう配慮している。衣類の着脱から入浴を1人のスタッフが継続して担当し、羞恥心等へ配慮している。入浴拒否傾向の人には、入浴に関心が持てるよう周囲の環境を整え、言葉掛けや対応の工夫が行われている。また全国名湯温泉浴を企画し、入浴を楽しむ為の工夫がある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの暮らしの中で食事の配膳や後片づけ・掃除・洗濯物たたみ等力量に応じて行ってもらい、月2回の健康体操やアクティビティ・季節の行事は入居者が主体的に参加できるよう配慮している。行事やアクティビティに関しては、家族へも定期的に案内し参加を促している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に沿って近隣や中庭の散歩、外出等出かけられるよう支援している。入居者の要望を聞き、毎月外出計画にそった支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物玄関は昼間開錠している。各ユニットのエレベーターについては、ホーム周辺が坂が多く交通量も多いため、安全面に配慮し、必要な操作のもとに利用しているが、操作を理解できる入居者は自由に使用している。施錠を含めた身体拘束について、ホーム内での学習会や運営推進会議で検討を重ねている。	○	今後も入居者が、自由な生活の中で安全に過ごせる暮らしを支えていく為に、地域や家族の協力も得られるよう、継続的な話し合いを持つ事が望ましい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携にて昼夜を想定した消防訓練を年2回実施している。地域との連携が図れるよう、地域共同災害訓練等に参加する事を検討している。災害に備えた備蓄についての体制も整えている。災害発生時等急な場合でも、備蓄した食材を使って入居者に配慮したメニューの提供が迅速にできるよう、委託業者とともに検討している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの食事摂取量を記録している。月1回の食事ミーティングとともに日常的に栄養士との意見交換も可能で専門的な立場からのアドバイスを受ける機会がある。水分摂取量に関しては、脱水等に配慮し、不足しないよう適宜支援を行い、個々の体調に応じ必要時は記録に残し、排泄量との比較をする等健康面の管理に活かしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間や居室の清掃は、入居者の協力もあり行き届いている。共有空間は壁・床・ソファ・家具等入居者の目に優しく感じられる配色で統一し、季節の花や観葉植物を設置し穏かに過ごせる工夫がなされている。幼稚で違和感のある装飾にならない様考慮しつつ、さりげなく入居者の作品を飾り、親しみの感じられる行事予定表を掲示する等、ユニット毎に環境への配慮がある。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内に洗面台とトイレの設置があり、プライバシーへの配慮がある。馴染みの家具や仏壇・装飾品を持ち込み、家族の協力にて季節の花を飾る等、入居者が安らげる空間となるよう支援している。</p>		

※ は、重点項目。